

人口減少社会と

地方都市の活力再生

68



株式会社さくら都市総合研究所

主席
研究員

清水 秀幸

15

新田町交差点以
南を考える以前は両面ともに県
道(399号長野豊野

の思い入れの温度差で
ある。

線)であったが、のちに以北についてのみ長野市に移管され、今日に至っている。

そして、同市は移管とともに、表参道景観整備事業の具体化に取りかかり、十数年の歳月をかけて今日の姿を造り上げたのである。

煎(せん)じ詰めれば、市と県との景観事業へ

もともと中央通り、表参道は片側1車線幅員の確保を前提に造られており、その東方に長野大通りを新設することで、本来の幹線機能をそちらに移行し、慢性的渋滞の解消を促進するとともに、交通圧力の低減を前提に「歩いて楽しめる表参道」を目指している。

つまりは、人間スケールにより賑わいを創生させようとする機能

を凝らした道路だ。

それにより、以北でも以南でも交通セル方式を取り込んだ施策を採用することで、本来は長野駅周辺から善光寺に至るまでの約1.8kmを、一貫して統一された造形を構築しようというコンセプトである。

しかしながら、現実として一つのまちづくり修景にこれだけの差が生じるのは、以北には見られないその道路周辺の不動産上の権利関係が極めて錯綜しているところにある。

というものは、基本的な権利関係の錯綜障害が少なかつたことが幸いしている。

しかしながら、その難題を抱える以南の一面に、久しぶりに再開の芽が生まれそうである。

清水 秀幸氏(しみず・ひでゆき) 1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社山谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長